

保育の中の物語(7)

ばか！ ばかじゃない！

～二分半のトラブルから～

岸井慶子



四歳児、七月初め。A男とT男が、突然、激しく言い争い始めた。

A男は、今日、中型箱積木を使って、一人で黙々と「自動車」を作った（この自動車は初め消防自動車、その後救急車、時どきただの自動車に変化している）。D男やR男も仲間に入る。三人で積木の上に並んで座り、楽しそうに会話を（この会話が面白い。「今日お酒ないよ」「あっそう。あのね。ビールしかないのね」「ビール飲むか？」「飲まない」「ビールいっぱい飲んできちちゃった。酔っぱらっちゃったよ」とか「ちよっと出かけてきます」など、まるでおうちごっこのような）。ちようどD男、R男が自動車から離れているとき、保育室に戻ってきたT男が、A男に積木の並べ方を変えるように言う。自動車先



端部の積木が、その下の積木より半分ほど前に出ていて不安定になっている、
と言うのだ。足で先端部分の積木を崩して見せ、危ないことをわからせようと
する。「いいのー」と拒否するA男に「でもさー……」とT男は主張する。A
男は「だめー、だめなの」と何度も言うが、そのたびに、T男は「だって、こ
うやって誰かが頭をぶつけたら大変なの」とたたみかけるように言う。A男は
自分一人で防ぎきれないと思ったのか「ここ、Dちゃんのとこだからー」と、
D男の名前を出して抵抗しようとする。

T男は、すぐさま「だーい（D男のこと）」と呼びかけながらD男の所に行
き、「だーい、あんなことするとね、人がね、危ないんだよ」と自動車を指さ
して言う。次に、大急ぎで自動車の前端部へ行き、片足で積木を崩すことを繰
り返す。T男の後についてきたD男は、その様子を見てうなずき、「だからこ
うやんないといけないんだよ」と素早くT男の言う通りに積み直す。

自動車の後部にいたA男が「だめなんだよ」と言いながら、D男が縦に積
み直した積木を再び平らに戻す。T男「だーめ。ケガすんだよ」A男「いいん
だよ」T男「ひとがケガすんだよ」。二人は先端部の積木を、座ったまま取
り合う。T男は「ねー」と脇に立っているD男に同意を求める。D男はうなず
く。A男は振り返ってその様子を見る。かなわないと思ったのか、A男は急に

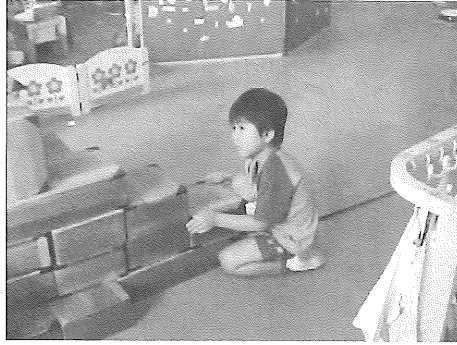


積木から手を放し、立ち上がって、「Tちゃんのばか」と投げつけるように言う。立ち上がったT男はD男に「ばかじゃないよね」と小さな声で聞き、D男が「うん」とうなずくと、「A君、自分がそんなこと言うんなら、A君がばかだ」とA男を指さしながら、大きな声で言う。A男「ちがうの」と反論。ここからは「きみがばかだ」「ばかじゃない」の怒鳴り合いにエスカレートする。園庭まで逃げるA男をT男は追う。三十回ほど大声で怒鳴り合い、T男「きみがばかって言ったから、だめなんだよー」、A男も負けずに「Tちゃんが先に(ばかに) なったんだよ」と応酬し、終わった。

T男が保育室に戻り、A男も続く。T男を目で追いながら、A男は積木を自分の思い通りに直す。その後、その積木の上に両手をつきながら、こわごわそっと乗ってみる。そして、T男の言ったとおりに積木を縦に積み直す。

このエピソードは先月号と同日のものだ。強風で、期待していたプール遊びが急に中止になり、やっと気持ち切り替えた後の出来事だ。A君が珍しく一人で積木を構成したのは、普段と違う朝の流れが影響したのかもしれない。

こんなに長く続く口げんかを見るのは久しぶりだ。語彙は貧しいけれど、思いの限りを、大きな声でこれだけ相手に向かって言い合えば、さぞ気持ちはすっきりするだろう。だから暴力にはならないし、最後にA君が積み方を試



し、自分から考えを変えることにつながったと思う。

日ごろから安全に関して特に神経質でもないT君が、なぜあのように不安定さにこだわったのだろうか。自動車前部の積木は低く、T君が言うように「頭にけがをする」ことは考えにくい。冒頭にも書いたように、観察していた私には「突然」始まったT君の「こだわり」に見えた。しかし、T君はその日三段重ねの積木から飛び降り、失敗して、直前まで保健室で額を冷やしてもらっていたのだった。そのことを知ると、T君の主張がまた違う意味をもってくる。

時どき「突然、いきなり、わけもなく」たいたいたり、壊したりする子がいると聞くことがある。その子なりの理由や必然の流れがあるのに、大人が気づかないだけではないだろうか。ただし、子どもの様子をじっと見ていた観察者の私でも、とっさには「突然」の出来事だと感じた。まして、あちらこちらに移動しながら気を配り、判断と行為を絶え間なく行う担任にとって、一人ひとりの流れをとらえることは難しいだろう。そうならば、せめて「きつと何かあるはず。今はわからないけれど」と考えたいと思う。「キレやすい」とか「衝動的」という前に、まずその状態に至った心の流れを理解したいと思った。

(鎌倉女子大学短期大学部)